

指定校番号	30029	○	学級活動		生徒会活動		学校行事	別紙様式
-------	-------	---	------	--	-------	--	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立東朋中学校	校長	胃甲 登	生徒指導主事	山手 寄喜宏
-----	-----------	----	------	--------	--------

取組事例名 『ともに学び高め合おうとする集団づくり』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性・チャレンジ精神」	3	「課題発見・解決能力」	1

取組のねらい『キーワード 安心・安全な学校生活へ』

平成29年度の東朋中学校は3年生を中心に落ち着きがなく、授業中の私語や徘徊、消火栓や防火シャッターへのいたずら、器物破損などの問題行動が多発した。発達上の課題のある生徒が繰り返し問題行動を起こし、対応に苦慮することもあった。その結果、安心して登校できない生徒が増えるだけでなく、生徒アンケート（平成29年度12月実施）では、「学校行事や生徒会活動で、仲間と一緒に頑張っって充実するようにしています」に肯定的に回答した生徒は66.7%、「自分には良いところがある」は79.4%となっており、生徒が仲間との関わりを大切にしながら学校生活を送っていない状況であった。

これらのことから、対話を通して互いを理解し合い、自ら課題に気付き、解決するための方策を考え行動することができる生徒集団の育成を図ることをねらいとして、学活の充実を図る取組を行うこととした。

平成29年度の状況					
	第1学年	第2学年	第3学年	合計	前年比
暴力行為発生件数（件）	1	0	2	3	±0
いじめ認知件数（件）	0	3	6	9	-2
不登校生徒数（人）	4	2	11	17	-1

取組の具体的内容『キーワード 課題発見・解決の場』

学活では、生徒が係活動や委員会活動を通して、学校生活の気付きを報告した。この報告をもとに、クラスの全員が課題を意識し、解決策を考えることができた。また、学活を生活改善の場として位置付け、意見を交流することを充実させることで、生徒は1日の生活のポイントとして学活を重要視するようになった。

さらに、4月の体育大会で結成した縦割り集団を活用し、他学年の学活を参観、意見交流を行った。異年齢間の意見交流は、より充実した学活の在り方について考える機会となっただけでなく、コミュニケーション能力を高めることにもつながった。

生徒会の各種委員会の新しい企画について各学級で議論を行うことにより、生徒会活動も活発になるという相乗効果が生まれた。

取組の課題・創意工夫『キーワード 交流』

生徒が学校生活を送るうえで重要なポイントとして学活を意識し、学活の質が向上するように、学年間の学活交流会を2回実施した。

【第1回 3年生の学活公開】

年度当初に3年生が学活を公開し、1年生全員が参観した。

1年生は3年生の学活から学んだことを発表した。

公開後、各学級では学活を活性化させるための方策について話し



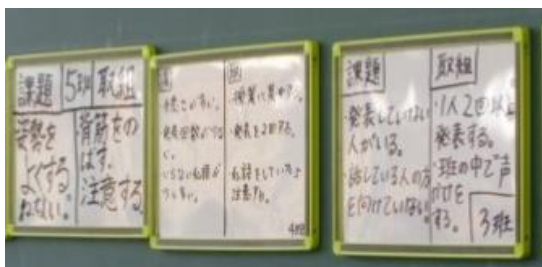
合い、目標を立てた。

【第2回 1年生の学活公開】

2学期に1年生が学活を公開し、2年生全員が参観した。

2年生は交流の仕方、伝え方などのポイントを助言した。

また、学活公開後、Q-Uアンケートの結果を活用して、学級集団づくりと特別支援教育の考え方を踏まえた生徒とのかかわりについて、職員研修を行った。



取組の成果（効果）『キーワード 主体的な活動』

暴力行為発生件数が今年度12月末現在で0件である等、問題行動は減少している。

生徒アンケート「学校行事や生徒会活動で、仲間と一緒に頑張る充実するようにしています」に肯定的に回答した生徒は、前年度66.7%から90.7%に増加した。

学活を、教師主導の取組から生徒を主体とした取組に転換したことにより、生徒の声が学級活動、学校行事に反映されやすくなり、多くの生徒が安心して学校生活を送り、充実した活動を行っていると感じている。



生徒アンケートの肯定的回答（％）			
質問項目	平成29年12月	平成30年7月	平成30年度12月
学校行事や生徒会活動で、仲間と一緒に頑張る充実するようにしています。	66.7	89.0	90.7

今後の展開『キーワード 自己有用感』

学活における意見の交流は行われているが、生徒一人一人の考えが十分深まっているとは言えない。特に、肯定的な意見の交流が少なく、生徒アンケート「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います」に肯定的に回答した生徒は76.1%にとどまっている。

また、今年度12月末現在で1、2年のいじめ認知件数は6件、不登校生徒は10名となっている。その理由として、「人の話がよくわからない、伝えられない」、「違う小学校出身の生徒との対人関係がうまくできない」ことがあげられており。今後は、校区内の小学校と連携しながら、他者との関わりを通して互いの違いや特性を理解する場をさらに充実させる必要があると考える。

平成30年度の状況 ※12月末					
	第1学年	第2学年	第3学年	合計	前年差
暴力行為発生件数（件）	0	0	0	0	-3
いじめ認知件数（件）	5	1	3	9	±0
不登校生徒数（人）	6	4	4	14	-3

他教科との関わり『キーワード コミュニケーション能力』

全ての教科で、学んだことや考えたことを相手にわかりやすい表現で伝える活動や、相手の考えを丁寧に受け止めながら自分の考えも深めていく活動を仕組む。

各教科等での活動を通して気付いたお互いの良さを学活で交流することで、お互いの違いを認め合える集団にしていく。